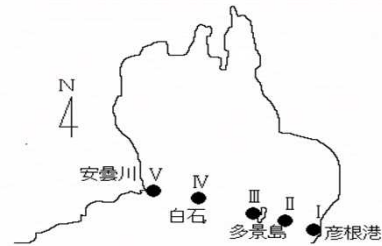


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和6年12月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご注意ください。

調査年月日 令和6年12月9日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 …… 5地点の平均値

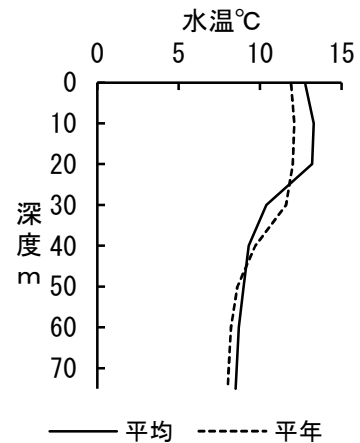
平年値 …… 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2014年～2023年(平成26年～令和5年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 12月平均値 5.1m 平年値 7.3m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	12月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	12.8	11.9	+0.9
10	13.3	12.1	+1.2
20	13.2	12.0	+1.2
30	10.4	11.6	-1.2
40	9.3	9.7	-0.4
50	9.0	8.6	+0.4
60	8.7	8.2	+0.5
75	8.5	8.0	+0.5



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
11月下旬	14.3	13.7	+0.6
12月上旬	12.6	12.2	+0.4
12月中旬	11.0	10.7	+0.3

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	12月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	23.4	9.2	+14.2
10~20	9.9	3.6	+6.3
20~40	4.6	2.7	+1.9
40~75	1.0	0.8	+0.2

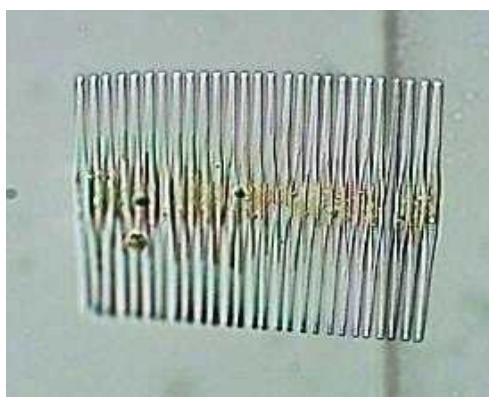
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、両地点で*Fragilaria crotonensis* (オビケイソウ: 珪藻) が細胞数で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、全地点でカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	12月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.2	96.9	10.2	96.0	0.0	(+0.9)
10	10.1	96.5	10.1	95.1	0.0	(+1.4)
20	10.1	96.2	10.0	94.4	0.1	(+1.8)
30	7.8	70.0	9.1	85.0	-1.3	(-15.0)
75	3.8	32.1	3.7	31.1	0.1	(+1.0)